

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601184		
法人名	杉友商事(株)		
事業所名	グループホームあすか2F		
所在地	愛知県名古屋市天白区高宮町1606-1		
自己評価作成日	平成27年1月8日	評価結果市町村受理日	平成27年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所(株)		
所在地	名古屋市東区百人町26番地スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成27年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で最も必要とされる事業所になるため、また理念である「利用者様にゆったり、楽しく、生き生きと過ごしていただけるよう支援する。」を実現すべく、毎月ユニットごとに研修を持ち、目標を立て実行している。  
 広い視野で物事が考えられるよう、社外の研修にも参加するよう勤めている。  
 地域交流が計れるよう、毎月ボランティアの方に来ていただき、地域のお祭りに参加し、年2回のバス旅行にはボランティアの方に車いす押していただいたりしている。  
 2Fユニットの方は、言葉で表現出来る方が少ないので、血圧、体温、心拍数、表情等の変化を見逃さないよう観察し、対応できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念と共に毎月ホーム目標を掲げて、利用者がホームでも自宅と同じように、好きなことややりたいことが思うように出来る、その人なりの生活を大切に支援に努めている。また地域に開かれたホームとして、多くの地域ボランティアの訪問、夏祭りへの招待、近所からの差し入れなど、日常的に交流が図られているのが印象的であった。利用者の重度化が進むにあたり、支援方針を家族と一緒にその都度話し合い、共に協力をしながら利用者を最後まで支える関係づくりも行われている。今後も利用者が笑顔で楽しくいきいきと過ごせるよう、ひとりひとりの思いを大切に支援を継続していきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を明示し、ユニット会議において理念を共有している。毎月目標を掲げ、全員で評価、実践につなげている。	ホーム独自の目標を毎月たて、理念と一緒に定期的に確認を行っている。利用者一人一人が、自分らしく暮らせるように、支援が理念に沿って行われているかも振り返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で、地域の方と挨拶を交わしている。地域の清掃、行事にも積極的に参加している。	今年度の夏祭りには、地域にお知らせのポスターを貼り、招待状を配り、たくさんの子どもや近所の人に参加をしてもらうことが出来た。自治会にも加入しており、地区の情報交換は行えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生さん、入所希望で見学に来られる際は、実践内容を説明している。包括で行う認知症の学習会に参加し、説明も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の近況や活動内容を詳しく説明している。又いただいた意見を日々の取り組みの中に活かしている。	併設をしている小規模多機能ホームと一緒に合同で行っている。2ヶ月に1回定期的を実施し、ホームの状況などが報告できている。いきいき支援センターや家族の参加協力も得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進委員となり会議に参加し、ホームの行事参加を伝え、ボランティアで参加して下さる方もある。又社協にボランティア依頼することもある。生活保護受給されている利用者があり、区役所との連携がとれている。	地域推進委員やいきいき支援センター主催の家族教室などに積極的に参加をしている。また、市主催の研修に参加し、職員のスキルアップに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度は研修を持ち、理解を深めるようになっており、サービスに取り組んでいる。	研修ではマニュアルを見合わせて、認識を深める様にしている。また、具体的にどんな支援の仕方が拘束にあたるのかを職員間で話し合い、よりよい支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解を深めるよう研修を持ち、日々虐待のないサービスを提供できるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習する機会を持っている。 必要性のある方は、その都度話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、理解、納得していただけるよう、時間を取り十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にも苦情の申し立て機関があることを説明し、些細なことでも管理者、職員に伝えて欲しいと依頼している。又、玄関に意見を述べられるようなボックスを設置している。意見をいただいた場合には、すぐに対処し、運営に反映させている。	家族会より看取りや重度化に伴う支援についての質問や意見が出された。ホームで対応が出来ることや医療の協力体制について説明をすると、家族より支援の方向性が分かり良かったと安心してもらえた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、アンケート調査があり、又、業務改善提案ボックスも設置しており、職員の意見や提案を運営に反映すべく努力している。	職員との面談が年に4回設けられている。管理者と個別で話が出来ること、業務内容の提案や改善などが現場に反映されやすくなっている。また支援方針の見直しもその都度見直すことが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、個々の評価の見直しを行い、管理者が本人と面談し、相互の理解を深めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、ユニット内で、マニュアルの再確認、認知症の学習会を持っている。又外部研修も募集し、必要と思われる職員には、参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、交流の機会を設けるよう勧めている。又法人全体で年2回交流会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階でご本人にお聞きし、様子観察し、希望に添えるよう、不安の解消に努めるようアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、困りごとをお聞きし、要望に添えるように話し合いを持ち、信頼関係が気づけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に事前に面談し、ご家族との相談を綿密に行い、状況把握し、要望に沿った支援の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い、価値観を大切に、その方の個性が活かせる場面(調理、掃除洗濯物置など)の提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に、毎月の様子を報告している。変化があった場合はご家族と相談しながら、支援している。食事介助の必要な利用者家族が、週数回介助に来て下さる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を求め、知人、友人に訪問していただけるよう働きかけている。又、ご本人の希望をお聞きし、出かけることもある。	利用者と一緒に行きつけの喫茶店へ出かけたり、誕生日には家族と一緒に馴染みの店へ食事に行っている。また暑中見舞いを書いて友人に出すなど、今までの関係性を大切にしたい支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う方々での外出、買い物等支援している。又テーブル席を考慮し、日常的に支えあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた場合の情報提供等、必要に応じ、対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に、希望をお聞きし意向の把握に努めている。ご自分で表明出来ない方にたいしては、表情、しぐさ等で把握するよう努めている。	希望や要望をなかなか口に出すことができない利用者の表情や、しぐさ、態度などを日々の支援の中で拾い上げ、担当者を先頭に職員間で共有し、支援に組み込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の時に、ご家族様に伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを(出来ること、出来ないこと)を使い確認し、ご利用者の思いをお聞きし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、カンファレンス、モニタリングを行い介護計画を作成、ご家族に説明、確認を行っている。その都度ご家族には要望等を伺っている。又状況の変化があった場合は、ご家族と相談し、介護計画の作り直しを行っている。	4、5ヶ月ごとにモニタリングをしているが、変化があれば都度見直している。カンファレンスの時に、本人の楽しみは何か、家族の困っている点はないか、などを話し合っ計画に組み入れ、職員には申し送り周知徹底と意識付けをしている。	介護計画がどこに目標を定めて作られているのか、総合的に流れを追った支援について全職員がより深く理解することに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活動、体調、ご本人の言われた言葉を個人個人で記録をし情報の共有し、実践につなげ、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談、ボランティア等活用し、出来る限りニーズに答えられるよう、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のコミセンの活動に参加したり、ボランティアによる催し物を実施。地域のコンビニ、床屋等歯医者等に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの主治医が往診に来てくれるが、ご家族それぞれの意向を尊重し、これまでのかかりつけ医に通院されている方もある。急変時には、主治医に相談し、紹介状を書いてもらい対応している。	協力医の往診を受けることも、もともとのかかりつけ医を継続して診療することも可能である。家族からの希望があれば受診時に付き添ったり、利用者の現在の状態を伝えたりし、医療の連携がとれるように事業所も努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度、訪問看護師が入っており緊急時には24時間対応してくれる。なかには個別に契約し適切な看護を受けているご利用者もいらっしゃる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを提供し、見舞いに伺い、入院時の状況把握に努めている。又ご家族と連絡を取り、退院後の受け入れをスムーズに行えるよう話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態、ご家族の意向に配慮し、出来ること出来ないことの話し合いを持っている。常日頃職員と話し合い、訪問看護師、主治医にも相談出来る状況にある。	入居時に看取りまで行うことは可能だと伝えられているが、実際に利用者、家族の意向があれば都度医療機関を交えた話し合いを持ちながら支援する用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、急変時についてはマニュアル整備し、ユニットで勉強会を持っている。又毎年、消防署の救急救命の講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、事業所において非難訓練を行っている。地域の方の参加はないが、何かあった時は助けていただけるよう、地域の行事参加、日頃の挨拶等欠かさないようにしている。	年に二度、昼間想定、夜間想定での避難訓練が利用者を交えて行われている。備蓄食料も各階に用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニットで、プライバシーの研修を行い、日々の支援の中での言葉づかいを注意している。	接遇の研修を職員は受けている。その上で、声掛けの音量に気をつけ、居間に個人日誌をおかない、金銭の話には配慮する、などの対応をし、また言葉遣いも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にお聞きするようにしているが、表現出来ない方には、二者択一でお聞きしたりしてなるべくご自分で決められるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別にお聞きし、その方のペースに合わせ、希望に添えるよう支援している。散歩以外にも外へ出かけたくてたまらない方への同行も、必要に応じ行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時衣類を一緒に選んだり、購入時にはご本人の気に入った衣類を購入するようにしている。又、ヘアスタイル等、美容師に注文している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を業者に発注しているが、時には利用者様と相談し、好きなもの、季節の献立をたて提供している。毎回、調理、盛り付け、後片付け等、一緒に行う場面もある。	平日は業者の献立つき食材宅配を使っているが、日曜の他、月に5～10回は別の献立をたて、利用者到手伝ってもらいながら作っている。月に1度の外食日や行事食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材を、業者に発注している。 摂取量を毎食記録し、一人一人に必要なに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けの必要な方、介助の必要な方等、その方の出来る力にあわせ、毎食後の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人の有る力を見極め、紙パンツ必要の方、布パンツにパット等使用の軽減を図り、時間で誘導、声掛けを行っている。	チェック表を利用しながら個別対応で、排泄自立を目指し支援している。夜間には睡眠優先ではあるものの、自分で排泄できる人はその感覚を大切に、そうでない人は体位交換を利用しパッド交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳の提供、毎日の散歩、体操等が出来るよう支援している。排便の確認を行い、便秘薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回となっているが、その方の体調にあわせ日を変えたりし、希望に添っている。	希望があれば毎日の入浴も対応している。拒否がある人には、声掛けの工夫、職員の変更、季節湯などで清潔を保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間眠そうにしておられる時は、横になられることを勧め、夜間も早く休みたい方等、夜間の睡眠状況に合わせ、ご本人のペースを尊重している。室温にも配慮し、湯たんぽも使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐにわかるように、服用されている薬の一覧を作り職員全員が理解するよう努めている。毎回の服薬を確実に支援出来るよう二重のチェックを行っている。症状に変化があった場合は、速やかに主治医に報告し、対処し		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意なもの、好きなものを知り、家事活動に参加していただき、甘い物を希望される方には、一緒に買い物に出かける等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に散歩、買物等に出掛けていただいている。家族様と一緒に通院したり、食事、喫茶、ドライブ等に出かけられる。年2回のバス旅行、みかん狩り等、遠出の外出には、ボランティアの方が参加される。	日常的に散歩や買い物、喫茶などに出掛けられている。年に2回バス旅行にも行っている。近隣の方の好意で芋ほりをさせてもらったり、小劇場でのコンサートや生花展などにも出向き、メリハリのある生活を送れるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方は、ご自分でおさいふを持ち買い物に出かけられるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出せるよう、希望時には電話で話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月壁面に、季節季節の貼り絵や、その月のお誕生日を祝うメッセージ等貼り出している。 共用の場所に余分な物は置かないようにし、混乱を招かないようにしている。	明るくすっきりした居間や廊下の壁に、利用者と職員と一緒に作り上げた季節の貼り絵が飾られ、日当たりのよい場所におかれたソファでくつろぐ利用者の姿も見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所はないが、それぞれ座り心地の良い場所が決まっており、自然にその場所に座り、ゆったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、いままで使っていた物をお持ちいただき、ご本人様らしい部屋にさせていただくよう提案している。又他利用者様の居室を見せていただき、参考にさせていただいている。	表札がかかる居室には利用者が好きなもの、馴染みのものがおかれ、仏壇を持ち込んでいる人もいる。仲のよい利用者が居室で歓談する姿もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札を判るように工夫している。共有空間、居室の物の配置にも配慮し、危険回避している。		